

「被災地忘れない」 この思いを届けて100号

歴代実行委員長の願いは、「あの日」から一貫しています。

「被災者の気持ちを想像して、私たちにできることを考えて、心を込めて被災地を応援しよう！」

たより「轍」の意味とわがいは…

当時の被災地の状況はまさに、津波がひいて地面はぬかるみや、水溜りで、がれきが散乱。その状態を見た委員が、この土地に復興のための力強い応援の足跡を残す決意でつけた名前が「轍」です。

それから7年3ヶ月がたち、轍は100号となりました。

みなさんには、見出しだけでも、文の1行だけでも読んで、大震災が起きた11日には一瞬でも、被災地のことを考えて欲しいと思って、たより「轍」を毎月11日に定期発行しています。

初代委員長 西紋 あかり 支援を必要としている人がまだいる

委員会を立ち上げて7年、轍1号から今月が100号。あの日テレビから目に飛び込んできた光景に愕然としました。真っ黒な波に車も家も何もかもが飲み見込まれていく。現実とは信じがたい。目の前で人が助けを求めて絶命する。何もできない自分が悔しくて。その思いは今でも忘れていません。あの時から被災地が気になり、友人と話し合い、何かきっとできるはずと思い委員会を発足しました。正直、こんなに長く続く活動になるとは思い至りませんでした。みなさんが、私たちの思いを受け継ぎ応援活動を続けてくれていることに感謝の気持ちでいっぱいです。しかし、裏を返せば復興にそれだけ長く時間がかかっているということであり、被災地には支援を必要とする人がいるということです。その事実を忘れず、時間の流れの中で、今何ができるかを考えて、続けていくことが大切なのだと思います。

この活動を理解し協力してくれる母校と大勢のみなさんに感謝します。

2代目 佐藤 千亜紀 3.11を未来に語り続けるために

轍100号おめでとうございます。そして同時に、今もなお活動を続けてくださっている委員のみなさん、そして支援をし続けて下さっている皆様に心からお礼申し上げます。震災から7年たった今、日常的に被災地のことを話す機会があるのでしょうか。2011年3月11日、留学中だった私は国外にいました。そんな中、母国のために何かしたいと思い、現地で募金活動を開始しましたが、被災地の様子も、生の声も知らず募金活動をしていましたが、帰国後東日本大震災被災地応援実行委員会に参加し、たくさんの被災者の声を聞かせていただき、さまざまな現実を知ることができました。また、活動を通じて、助け合い、喜んでいただくことの喜びも多く学びました。

これから先、3.11を知らない世代へと徐々に変わっていきます。だからこそ、委員のみなさんが活動を通して語っていくことが大切です。共に語り未来に繋げて参りましょう。よろしく願いいたします。

6代目 岩本真奈・三升巴菜・森脇侑・矢田まりあ

愛ある活動が自分の強さに

尊敬する先輩方から受け継いだこの委員会、今も活動が続いていることが嬉しく思っています。たくましい後輩のみなさんが活動を続けてきたお陰で轍の創刊 100 号と続いたのです。

愛とは見返りを求めないこと。しかし、愛のある被災地応援活動を続けることで、必ず自分の強さになります。みなさんはその強さを身につけていることに胸を張ってください。この活動を通じて、誠意ある人になっていってください。最後に、東日本大震災被災地応援実行委員会の活動を続けていってください。お願いします。

今までの歩み、新たな歩み。

- 轍 100 号を振り返ると、本当に様々な活動の足跡をうかがい知ることができます。できることを考えて、実行に移してきた歳月でした。そのほんの一部を紹介します。
- 2011 年は、生活必需品を送るためにバザーなどで資金調達しながら、数多くの物資を届けてきました。
- 2012 年は、物資を送るためオリジナル商品を作成・販売し、商品を手元においてもらうことで被災地を想う大切さを訴えました。また、笑顔のアルバムを作成しました。
- 2013 年は、応援歌を作詞作曲したり、音楽系クラブに依頼し演奏を録音したり、CD 作成をして、デッキと共に SD をお届けしました。
- 2014 年は、気仙沼に咲いた向日葵の種を校庭に蒔き、復興の願いを向日葵に託し、各家庭でも向日葵を咲かせて被災地を思う活動を行い、「11 円募金」を開始しました。
- 2015 年は、気仙沼・女川・陸前高田など被災地を訪問し、仮設住宅で暮らす方々との交流を行いました。
- 2016 年は、日本の各地の桜の写真を収めた絵葉書を作成し、被災者の方々に手紙を送りました。
- 2017 年は、神戸の未来防災センターを訪問し、防災についての学びを深めました。

この間、繋がった被災者は 1000 人を越えています。いただいたお手紙だけでも 300 通以上になります。募金や商品購入など協力してくださった人の数は数え切れません。活動は学内から地域へと拡げ、「11 円募金」も今では通勤途上の方々の協力も得られるようになりました。その取り組みの一つ一つを轍 100 号に刻んできました。中高の HP には 1 号から掲載し、それを見てくださる方からの激励もいただいています。実行委員会は今年度から、定例会議で、防災についての学習会を開いています。これからも、小さな力をより集めて、私たちができる応援を考え、私たちらしい活動を続けていきます。よろしくお願いします。